



日本株短期売買研究会 無料レポート

**「忙しくてチャートチェックができない方が
あまり時間をかけずにできる投資戦略」**

中期投資用成功銘柄と ロングターム投資戦略

監修/日本株短期売買研究会



はじめに

こんにちは、日本株短期売買研究会です。ここ数年、下記のようなお問い合わせが増えています。

- 「仕事が忙しくてチャートチェックができないので、あまり時間をかけずにできる投資戦略を教えて欲しい！」
- 「短期売買や中期投資、ロングターム投資を併用して安定した資産運用をしたいが、銘柄の選定基準や売買のタイミングが分からないで困っている。投資セミナーに参加しても結局『いつ、何を』買えばいいのか分からない。」

短期売買ではチャートのチェックがどうしても必要になります。しかし、仕事が忙しくその時間が取れないとなると、ある程度投資の時間枠を伸ばす必要があります。中期投資やロングターム投資ではチャートチェックに毎日時間を割くことはありません。しかし、中期投資やロングターム投資では、もし「高値掴み（たかねづかみ）」をしてしまうと、どんなに優良企業の株であっても、数年から数十年の間に亘り塩漬け状態が続き利益が出ない恐れがあります。

そこで当会では数多い中期投資、ロングターム投資戦略の中で比較的調査・準備に時間のかからない、しかも、底値圏で仕込むことのできる確率の高い銘柄とその投資戦略についての解説を公開することにしました。それが本レポート「忙しくてチャートチェックができない方があまり時間をかけずにできる投資戦略～中期投資用成功銘柄とロングターム投資戦略～」です。

「仕事が忙しくてチャートチェックができない！」

「短期売買と中期、ロングターム投資を併用したいが銘柄の選定基準や売買のタイミングが分からないで困っている！」

そんな思いを抱いている方は、是非、このレポートをお読み頂き自身の投資活動の参考にして下さい。

日本株短期売買研究会

中期・ロングターム投資の失敗の最大原因とは？

中期投資・ロングターム投資では短期売買ほどにはチャートのチェックや銘柄選択に時間と労力がかかりません。しかし、それは「中期投資・ロングターム投資は簡単だ！」ということではありません。

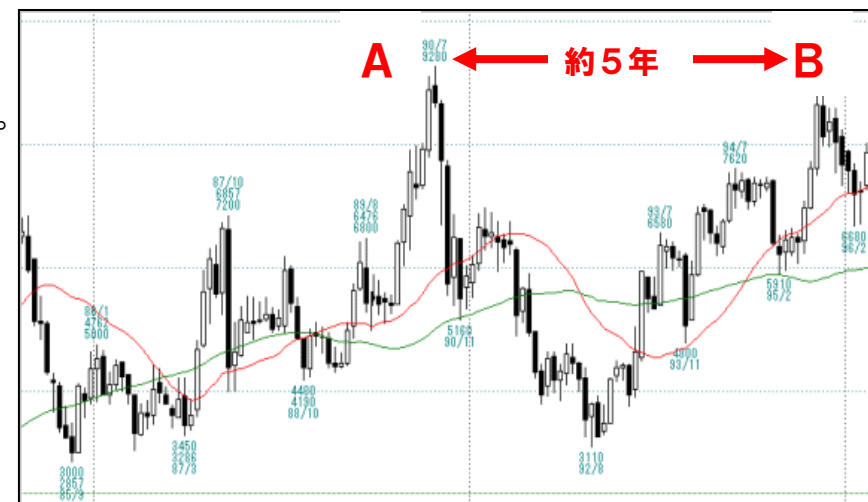
当会では皆さんの過去の投資における失敗談を多くご寄稿頂いているのですが、その失敗談の中で中長・ロングターム投資に関する失敗談として最も多いものが

「昔、買った銘柄が、購入時の半分以下の株価になってしまい、今でも塩漬けになっています。」

というものです。いわゆる「高値掴み（たかねづかみ）」をしてしまった人たちです。

「株価の勢いに乗る」短期売買とは異なり、中期・ロングターム投資では「下げ止まった底値圏内」で銘柄を仕込まないと、どんな優良企業の株であっても数年～数十年に亘り利益が出ません。

中期・ロングターム投資では「**仕込む水準**」が極めて重要なのです。例えば、右図はある優良企業の約10年間の株価の推移ですが、株価が上昇しているAの時期前後に「この企業の業績は上向きで株価も上昇中だし、これは買いだ！」と思ってこの銘柄を仕込んでしまうと、買値の水準（Bの時期）に戻るまで**5年以上**もかかってしまいます。



「ボックス銘柄投資戦略」について

個別銘柄の株価は日々の変動だけを見ると上下動があり、随分と大きく、ランダムに動いているように見えますが、月足や年足で見ると実は規則正しい動きを示していることがあります。



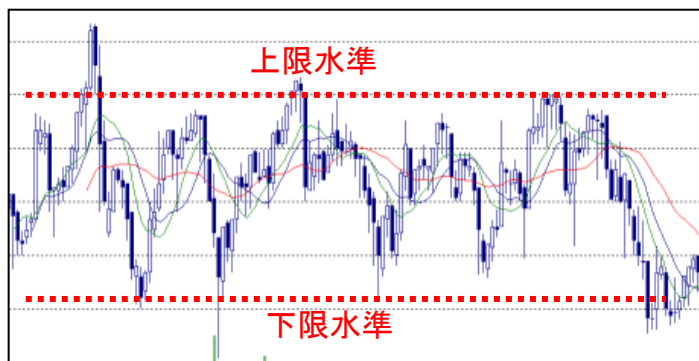
左の2つのチャートを見比べてみてください。
この2つのチャートからあなたは何を読み取ることができますか？

実は上のチャートはある金融機関の日足チャートです。
随分と乱高下していて、どこで買ったら良いか判断に迷います。
この状態は「木を見て、森を見ず」の状態です。

ところが下のチャートを見て下さい。このチャートは上のチャートと同じ銘柄のおよそ10年間に亘る期間の月足チャートです。



月足チャートは「個々の木」ではなく、「**森全体**を見ている」状態ですが、この銘柄は月単位で見ると**下値の水準がほぼ同じ**であることが分かります。ここに個人投資家が「高値掴み」を避け、「利益を生み出す」チャンスがあるのです。このように株価が一定の水準内で上下している状態の事をボックス圏と言います。



中長期の期間において株価の水準が一定の範囲内で動いているということは、**その株価の底値水準や天井水準に多くの投資家が関心を持って売買してきた**ということを示しています。そのため中長期的には今後もその水準内で株価が動く確率が高いということです。（もちろん相場に絶対はありませんので、あくまでも確率が高いということです。）

このような中長期的に一定の範囲内で上下動する状態にある銘柄で売買する投資法をボックス銘柄投資法と言います。

シンプルかつ効果的な投資ルールとしては**ボックスの下限水準で銘柄を仕込み、上限水準で売る**というルールになります。

シンプルなこの投資法の最も優れた点はその銘柄の下限水準が分かり易いため、**中長期投資家が失敗する最大の要因である高値掴みのリスクを減らすことが出来る**という点です。（何度も繰り返しますが、中期・ロングターム投資での失敗の原因のほとんどは買いのタイミングを誤ったことによる「高値掴み」です。）

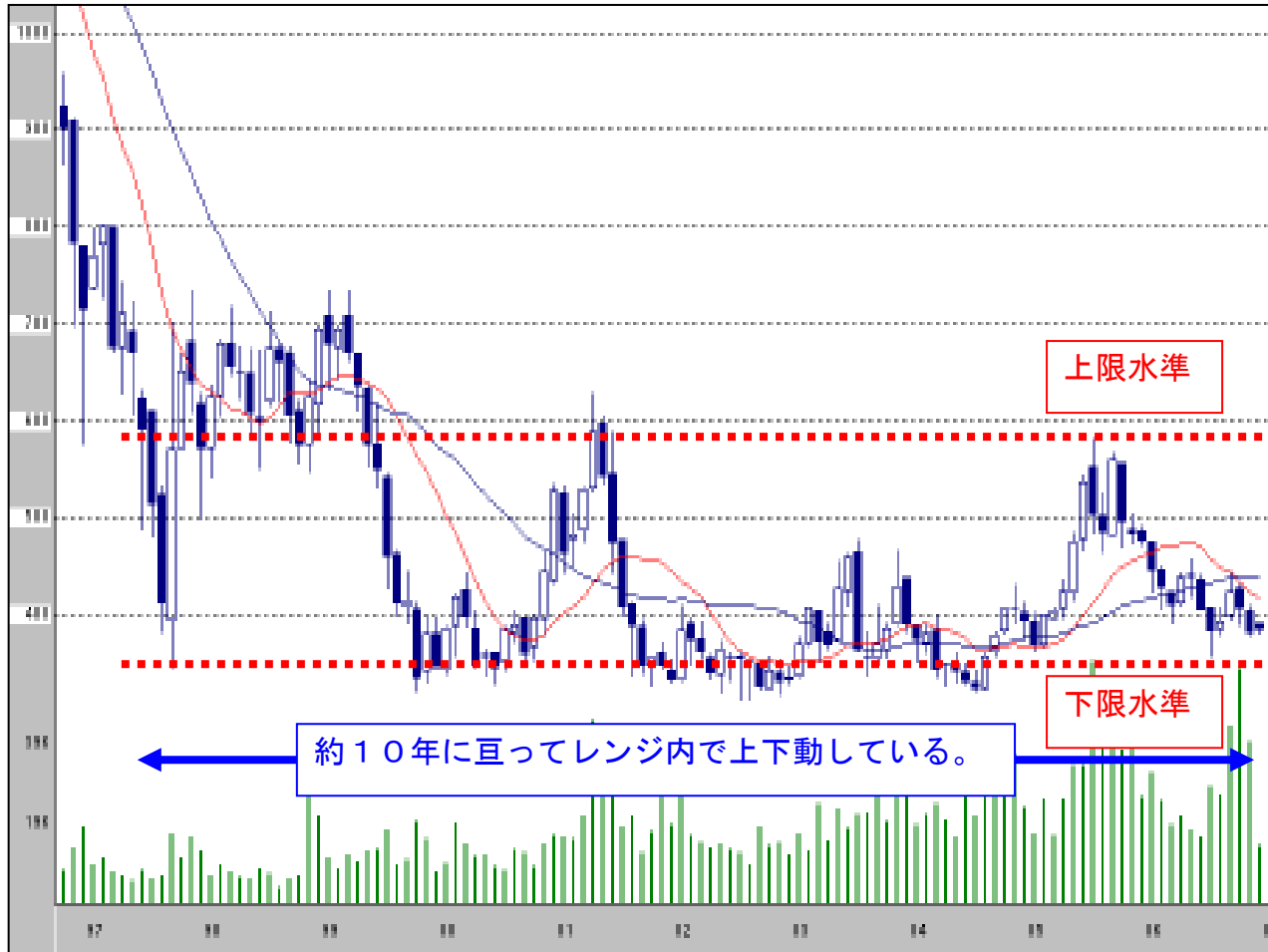
株価が下限水準に来るまでに数ヶ月～数年はかかりますので、仕事の合間に相場銘柄の月足チャートをじっくりと調べておき、株価が下限水準に近づいてきたら、仕込みの準備にかかるだけです。

この投資戦略なら仕事が忙しい方でも、チャートチェックする時間がない方でも比較的lowリスクで中長期投資に望むことができます。（もちろん、当会の会員さんの中にはチャートチェックを行ない短期売買を行なうとともに、この投資法も併用して安定的に資産運用を行なっている方もいらっしゃいます。）

このような動きをする銘柄のいくつかを次ページ以降で紹介しますが、このような銘柄は「飛躍的な成長は期待できないけれど、長年健全な経営を行なってきた堅実で地味な企業」に多いようです。（※注意／ここで紹介する銘柄は当会の会員さんのご協力により公開するものです。実際の投資に際しては各自で調査、判断のうえ投資を行なってください。）

「ボックス銘柄投資戦略」銘柄 ※注意／今後の株価の動きを予測する情報、購入を推奨する情報ではありません。

※銘柄は全て東証一部上場 ※月足チャート ※企業情報・データ参照元 会社四季報



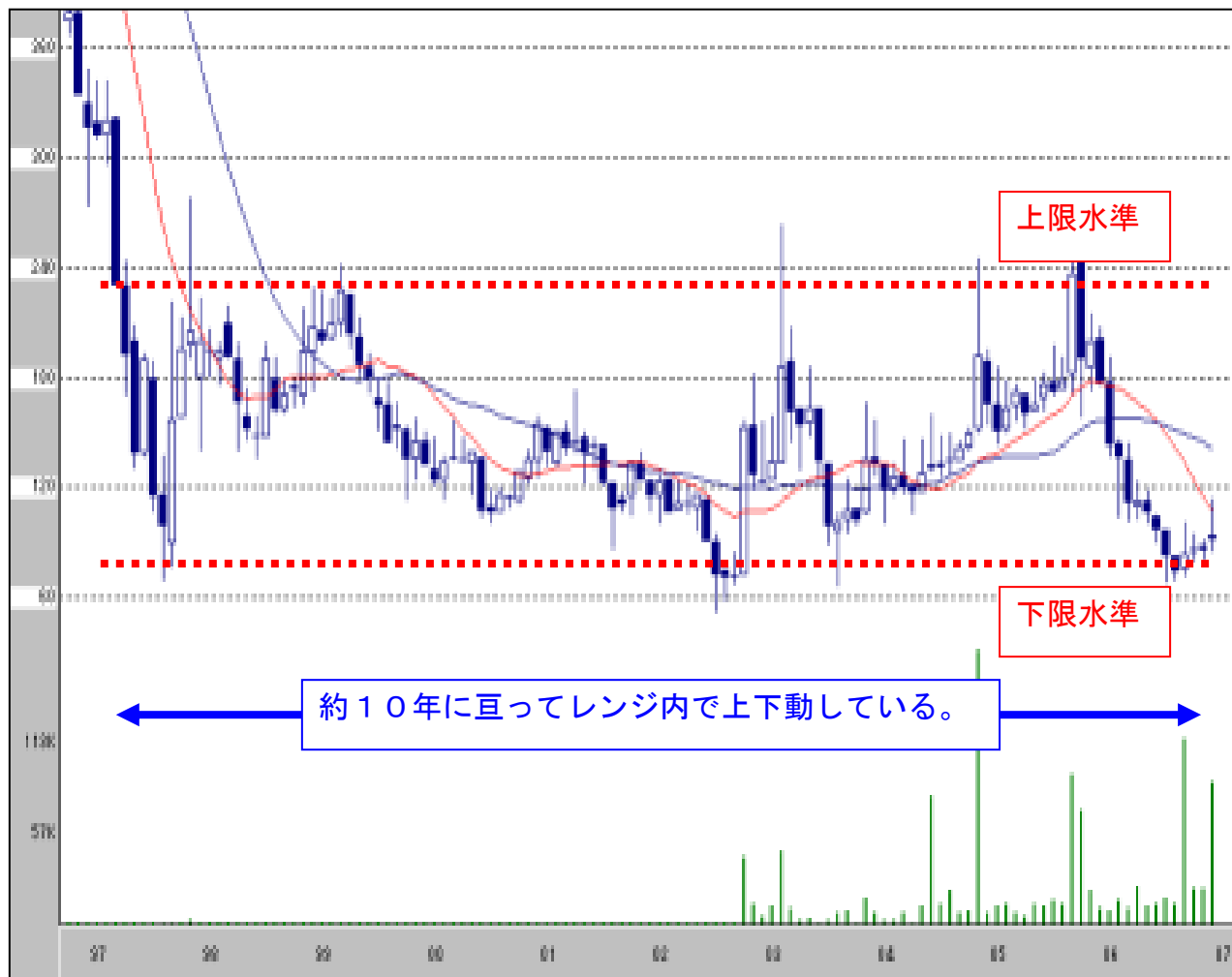
西松建設 (1820)

<http://www.nishimatsu.co.jp/>

【特色】ダム・トンネル等大型官庁土木が得意。香港等東南アで実績。財務良好。戸田建設と業務提携

【回復】単体受注は土木伸びず横ばいの4300億円に減額。資材費急騰等想定外。貸倒引当金繰入等68億円。08年3月期は単価減の官庁土木で粗利益率低迷だが、建築の工事損失引当金一巡で営業益回復。

【海外】前田建設工業とスリランカで水力発電施設工事受注。インドは昨年営業所を設置、市場調査進める。国内は首都圏開拓強化。都市再開発、工場、病院等狙う。



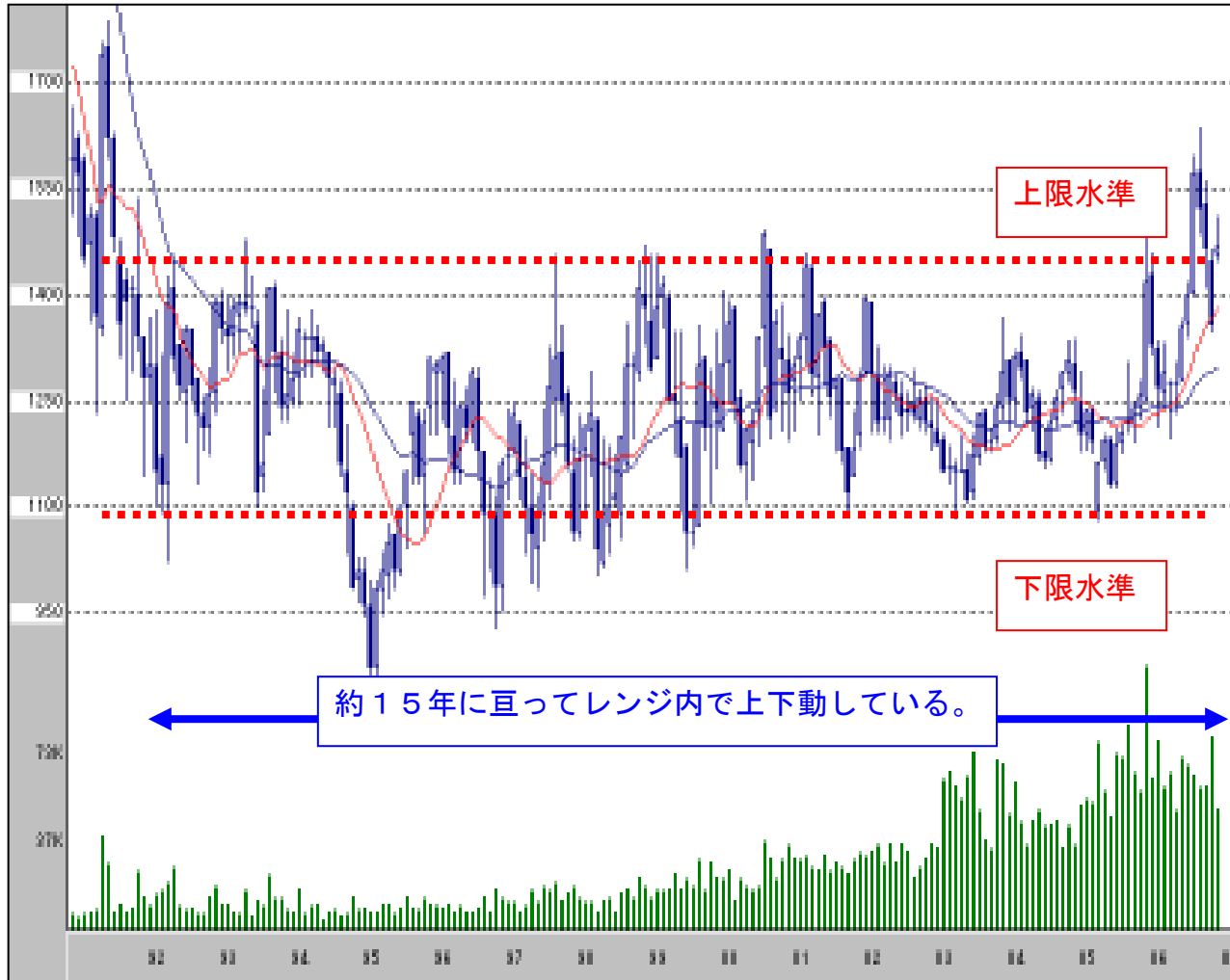
佐伯建設工業 (1889)

<http://www.saeki-const.co.jp/>

【特色】海上土木が主力。浚渫から一般土木にも展開。官需8割、民間建築、開発事業にも参入意欲

【浮上】単体受注は土木伸びず1割増の360億円に大幅減額。羽田沖着工見送りで完工減り一転営業赤字。08年3月期は羽田沖の土木貢献で黒字浮上へ。だが、建築で労務費等高騰。営業益回復力は弱い。

【新中計】10年度までの4年間に営業所半減、人員2割弱減などの合理化推進計画。営業利益10・5億円を掲げるが、課題は山積み。単独中間末繰越赤字9・5億円。



味の素 (2802)

<http://www.ajinomoto.co.jp/>

【特色】調味料国内最大手。アミノ酸技術を多角的に利用。医薬・飼料も展開。海外事業を拡大中

【増益】海外食品とアミノ酸の値上げ効果大。ただ暖冬でスープ等の国内食品が苦戦、増益幅縮小。08年3月期はアミノ酸が軟調でも、海外食品の好調持続。医薬品の契約一時金消滅と原料高こなし営業増益。

【原材料】エタノール需要に押され上期央は発酵原料高で60億円の悪影響。削り節大手ヤマキを持ち分対象に、高騰のカツオ原料調達効率化狙う。米国乾燥野菜会社買収。



戸田工業 (4100)

<http://www.todakogyo.co.jp/>

【特色】酸化鉄専門首位。VTRテープ用磁性粉末からプリンタ用トナー等へ展開。環境事業も強化中

【増益】酸化鉄は堅調。下期連結の子会社も寄与。が、材料高が想定上回る。営業益減額。08年3月期は酸化鉄のVTRテープ向け縮小続くが、プリンタのトナー向け等好調続く。リチウム電池材も数量増。通期連結化の子会社も上乘せ。営業増益。

【戦略】電池材は需要増が見込まれる自動車向けへの研究開発に注力。トナー向け酸化鉄はカラー対応品の拡販を積極化。



アルゴグラフィックス
(7595)

<http://www.argo-graph.co.jp/>

【特色】CADシステム販売、保守サービスが主柱、自動車向け半分。科学技術計算システム構築も強い

【底入れ】システム保守は堅調。だがCADシステム販売が競争激化で苦戦。採用活発化による人件費増も響く。08年3月期はCADシステム販売が仕込み案件実り採算改善。システム保守も大手自動車メーカー向けなど中心に安定増。営業益底入れへ。

【巻き返し】CADは金型メーカーなど潜在需要高い顧客をターゲットに巻き返し。低価格&高性能の並列計算機販売も強化。



シークス (7613)

<http://www.siix.co.jp/>

【特色】電子・電機部品や自動車部品の商社。海外に拠点を持ち組立請負まで行う。開発力強化中

【営業益改善】主力の電子機器はデジタル家電、車載機器、情報機器等の基板実装工場が軌道に乗り改善。自動車部材は微増。償却負担増こなし営業益回復。欧州子会社の投資関連特損なくなる。5円増配。

【設備投資】電子回路基板実装を行うタイの第2工場が07年末竣工、タイ物流センターは07年央完成へ。次世代LEDモジュール実装受託で欧州オスラム社から認定。



静岡銀行 (8355)

<http://www.shizuokabank.co.jp/>

【特色】地銀上位。国際自己資本比率邦銀トップ級、格付けも高い。県内シェア預金2割、貸出金3割弱

【利益更新】資金益増加に国内債券関係損益が改善し増益。退職給付制度改定で50億円上乘せ。証券子会社好調。08年3月期は貸出金続伸に貸出金利引き上げが浸透。証券子会社も好調続く。臨時益ないが利益続伸。

【積極策】スモールビジネスローンの拠点拡充し対象先を7900社に。個人向けにホームエクイティローン、大型カードローン開始。欧州現法で世銀債引き受け、販売。

※2000年から2004年にかけて、金融不安、地銀の改編にともない、一旦ボックス圏の下限水準が変わったようですが、2005年中盤からまたボックス内に値を戻してきています。



大垣共立銀行（8361）

<http://www.okb.co.jp/>

【特色】岐阜県西部地盤に愛知・三重・滋賀に展開。年中無休窓口など新しい取り組みに積極的

【微増益】預金金利上げ先行だが、下期貸し出し利回り回復へ。国債等債券売却損発生。与信費用7億円と低水準でも純益反落。08年3月期は貸し出し利回り本格回復。投信、保険販売手数料も伸長。与信費用は20億円程度と巡航速度化。最終益微増。

【新中計】今4月以降岐阜県内はフルバンキング店舗と個人向け店舗を機能明確化。愛知は三河、名古屋市など空白地に進出。

以上

追伸：日本株短期売買研究会の考えるロングターム投資戦略

コード	市場	名称	購入価格	保有数	取引値	損益	損益
	東証1部		2,535		2,155		-14.99%
	東証1部		193		379		+96.37%
	東証1部	業(株)	826		1,313		+58.96%
	東証1部		93		1,009		+984.95%
	東証1部	ス	124		26		-79.03%
	東証1部		48		64		+33.33%
	東証1部		1,460		1,160		-20.55%
	東証1部		904		1,096		+21.24%
	東証1部	フ	1,190		1,891		+42.10%
	東証1部		1,450		3,050		+110.34%
	東証1部		143		227		+58.74%
	東証1部		910		1,898		+66.59%
	東証1部		408		3,140		+669.61%

実は当会では無料レポート「短期トレードを成功させる4つのポイント」にも書いたとおり、数年に一度の買い場で買う「中・長期投資」なら調査能力、資金力で劣る個人投資家にも機関投資家に勝つチャンスがあると考えていました。

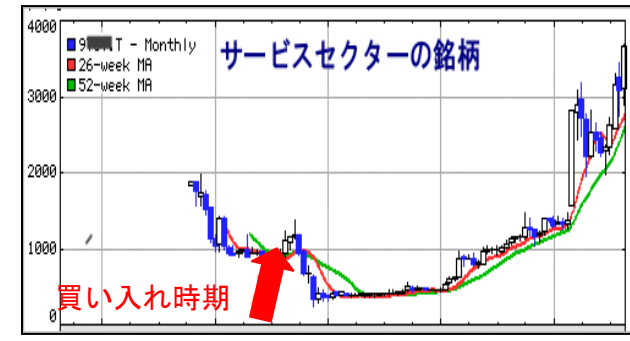
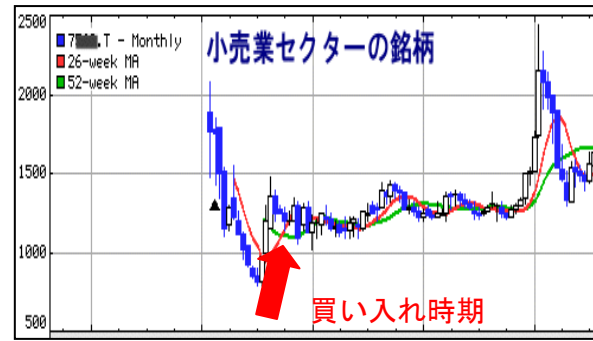
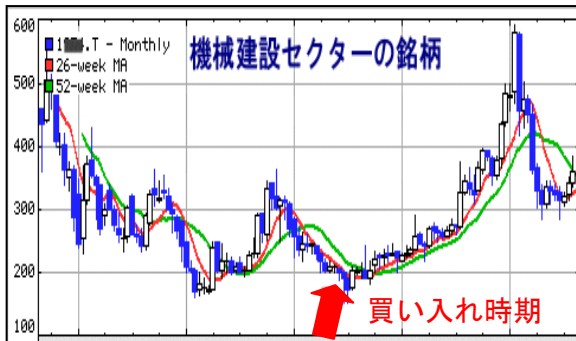
そして当会では本レポートで解説してきた「ボックス銘柄への投資」とは別に、

独自の投資戦略に基づく銘柄選択と売買タイミングの把握に基づき、

5年前から長期投資のポートフォリオ運用を行ってきました。

左の表がそのポートフォリオの運用状況です。

また、下のチャートは運用銘柄の月足チャートの一部です。小さな赤い色の矢印の描かれている時期がその銘柄の買い入れ時期です。ほぼ、**底値圏での仕込みに成功**して、その後、株価が上昇していることがお分かり頂けると思います。



もちろん、**銘柄の選別と仕込みの時期は当会の独自の長期投資戦略に基づいて計画どおりに行なった**ものです。

しかも、銘柄選別と仕込みのタイミングを計るために、ほとんど労力と時間を費やしていません。

いくつかの指標や基準を定期的にチェックしていただけです。

当レポートで解説してきたボックス圏銘柄の投資もリスクが低いので慎重な性格の方にはお勧めですが、短所は

(1) 銘柄数が少ない (2) まとまった運用益を出しにくい という点です。

そこで、当会では前ページの運用実績を生み出した投資戦略、購入のタイミング、銘柄の選択の基準、トレードルールを公開するために、昨年から情報の整理・編集作業を続けてきましたが、この度、ようやくその編集作業が完了したため、この投資戦略をマニュアルとしてリリースすることとなりました。



そのトレードマニュアル名は『**ミリオネア・メソッド～数年間の時間枠で投資を行い、**

ゆっくりと資産を築くためのロングターム投資戦略～』です。

もし、あなたが

- 仕事や家事が忙しくて、銘柄チェックやチャートのチェックを毎日行なうことが出来ない。
- 国の年金制度があてにならないので自分で資産をじっくりと運用したいが、調査、運用の労力にあまり時間を充

てることができない。

- 短期売買と併用して安定した長期投資も行ないたいが、どのような銘柄をいつ買ったら良いのか分からない。
- 小額な元手やミニ株でも高いパフォーマンスが期待できる投資戦略を探している。
- ロングターム投資に興味があるが、企業調査、業績調査、財務分析が苦手。
- 家族や子供のためにリスクを抑えて資産の形成を始めたい方短期売買と併用して安定した長期投資も行ないたいが、どのような銘柄を、いつ買ったら良いのか分からない。

と、考えている場合には『**ミリオネア・メソッド**』は最適な投資戦略となります。

詳細は下記のページにて解説を行なっていますので、長期投資に興味があり、短期売買と併せて資産の効果的な運用をお考えの方はアクセスしてご高覧下さい。（※下記をクリックするとアクセスできます。）



手間と時間を極限まで省きながら高い運用益を実現した

驚異のロングターム投資戦略『ミリオネア・メソッド』

<http://www.1advantage.info/longterm.html>

<免責条項>

- ・ 本書の読者は、株式、先物、為替、オプションなどの取引による損失を含むすべての危険を、自己の責任として負うものとしします。
- ・ 本書の情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。当該情報に基づいて読者が被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。
- ・ 本書内でご紹介している銘柄は、「推奨銘柄」ではありません。あくまでも、トレード技術を習得するための「材料・教材用の銘柄」です。また、本書に掲載の情報は、投資の勧誘を目的としたものではありません。
- ・ 本書記載の方法やテクニックは利益をもたらすことを、保証あるいは示唆するものではありません。本書掲載の過去の事例は、必ずしもこれから先の結果を示すものでも、予測するものでもありません。
- ・ 本書で使用されているトレード例は、トレード手法やトレード理論をわかりやすく説明するために当会では運用していない銘柄のチャート図、情報も混在しています。
- ・ 本書にて提供される情報は、教育と一般的な情報提供を目的としています。教材の内容は一般的情報であり、投資アドバイスには該当しません。
- ・ 株式、為替、先物、オプションの取引にはリスクが伴います。当社は本書の情報を使った者の利益や損失の補填を保証することはできません。株式、先物、為替、オプションなどの取引には相当のリスクが伴います。取引を行う際には投資家ご自身の判断で自己責任のもとに行ってください。
- ・ ファーストアドバンテージ有限会社は証券及び投資顧問に関する免許を有していません。実際の投資行為に際しては、会計士、弁護士、専門的アドバイザーなど適切な専門家の意見を求めた上で自己責任のもとに注意深く行ってください。

ファーストアドバンテージ有限会社

日本株短期売買研究会

949-0303 新潟県糸魚川市田海 2886-1